

人のお世話が私の元気に。 ボランティアで続ける縁結び

元武蔵野市職員

露木サヨ子さん (68歳)

2006年3月定年退職

【つゆき さよこ】1947年、東京都出身。都立三鷹高校定時制を卒業後、1965年に武蔵野市役所に入庁。企画室広報担当市民相談室を皮切りに社会教育課、高齢者支援課、納税課、ゴミ総合対策課等。市民相談室の相談員としてNHK『こんにちは奥さん』に出演経験も。現在、武蔵野市民社会福祉協議会結婚相談員を8年間務めた経験を生かし、さまざまなボランティア活動に携わっている。武蔵野落語同好会では会長の座こそ後進に譲ったが、今でも自ら高座に立つ。家族は市職員から市議になった夫と2男1女。健康法は毎日のツボ押し。



主催する「玉ねぎツアー」で

——露木さんは「縁結びおばさん」として地域でも知られる存在だそうですが、結婚相談を受けられるようになったきっかけは何だったのですか。

1975年、私の妹のために結婚の世話をしたのが最初です。その後、職場の同僚を成婚させたことで次々に結婚相談が寄せられるようになり、ボランティアでお見合いの世話をするようになりました。

定年退職後は武蔵野市民社会福祉協議会の結婚相談員として8年間活動してきましたが、昨春閉所されたため武蔵野結婚相談ボランティアを4人で立ち上げ、毎週金曜午後1時に結婚相談所を開設しています。

——これまでに何回くらいお見合いに立ち会われたのですか。

40年間で2000回以上のお見合いをセッティングし、そのうち成婚したカップルは約50組です。私の婚活住所録にはさまざまなるルートで集まってくるお見合い希望者が、常時300人ほど登録されています。そこからそれぞれの希望や居住地、職業などを考えながら、夫婦としてうまくいきそうな男女に連絡をしてお見合いに進めていきます。年5回は市内で婚活パーティーも開催していますし、他の自治体の婚活イベントにも関わっているんですよ。

——他の自治体の婚活イベントですか？

そうですね。富山県南砺市では婚活支援事業の世話を務めましたし、今年も長野県川上村の独身男性の婚活イベントにも協力

させていただきました。どちらも武蔵野市の友好都市というつながりですが、首都圏で参加者を募って連れていき、それが縁で成婚に結びついたカップルもいるんですよ。

いずれの婚活イベントも新聞やテレビ・ラジオでも取り上げていただき、かなりの反響がありました。その時、電話もじゃんじゃん掛かってくるようになった関係で、今ほどにたく婚活支援の活動で忙しくしています。

——結婚相談や婚活支援以外では、どのような活動をされているのですか。

都市と農村の交流を目的に実施している「玉ねぎツアー」は私が主催するようになって今年で16年目を迎えます。もとは武蔵野市主催だったのですが、平成10年に中止されて以降、個人としてボランティアで引き継ぎ、長野県安曇野市の玉ねぎの収穫時期に合わせた日帰りツアーを年4回開催しています。200人の参加者の多くが高齢者の方々ですが、高齢になっても友だちと出かけることができる貴重な機会として、毎年楽しみにされている方がたくさんいらっしゃいます。



「玉ねぎツアー」で玉ねぎ収穫後に開催される「武蔵野落語同好会」の安曇野出前寄席

●露木さんの1日のスケジュール

7:00	起床、朝食の準備
13:00	昼食
21:00	夕食の準備
25:00	就寝

※その他の時間は日によって婚活支援を柱とするさまざまな地域活動で時間が埋まっている

●露木さんの1週間のスケジュール

月	フリー
火	以前は自分自身の趣味の日として、ガーデニングやお菓子作りを楽しんでいたが、現在は婚活関係の時間に充てている
水	フリー
木	三味線のお稽古と食事会
金	結婚相談所(13時半～16時)
土	お見合いの付添など
日	お見合いの付添など



毎夏4回に分けて開催されている「玉ねぎツアー」



愛娘さおりさんの結婚式で記念の一枚

趣味の三味線の仲間たちと一緒に。ご主人は民謡を楽しんでいる



長野県川上村で「むさしのジャンボリー」



また、市内の小学生を対象に2泊3日の自然体験を行う「むさしのジャンボリー」にも1972年から毎年参加しています。実はこのイベントの名付け親は私なんです。社会教育課青少年係にいた頃に携わったのですが、その分思い入れが強く、今でもボランティアですつと参加し続けています。

その他、障害者の団体が企画するバスツアーのためにリフト付きバスを調達したり、その経費のためのリサイクル活動を手伝ったり、趣味で習っている三味線のお稽古の後に毎週皆さんのお昼ご飯を用意したり、近所のおばあちゃんが具合悪いと聞くと様子を見に飛んで行ったり、いろんなところで人のお世話をしていますね。

—— **そのように人のお世話をされるようになったのも、何かきっかけがあるのですか。**

役所に入って最初に配属された市民相談室にいた頃の体験がきっかけになったのかもしれないですね。ある日、一人の女性が離婚して田舎に帰ると言って市民相談室を訪ねて来たのですが、話を聞いてあげるとその女性は気持ちが落ち着いたのか元の生活に戻っていきました。その時、人様の人生をおしゃべりで解決できるということに感激しましたし、同時に、隣近所に話を聞いてくれる人がいないから寂しいのだということに気づきました。それからというものの親身になって相談に乗っているうちに、いろんな人のお世話を焼くようになっていったのです。

納税課にいた頃は、税金を滞納したまま

市外に転居した若者が少しずつでも払えるようサポートしました。毎月送る振込用紙に付箋を貼って、「寒くなるから風邪をひかないようにね」など必ず言葉を書き添えるようにしたんです。その後、数年かけて完納できると、その若者の親から感謝状が届きました。「お陰さまで子どもが国民の義務を果たすことができました」と。私にとっては、そういった人間関係もおもしろいんですよ。

婚活支援の活動で電話代、郵送代など月に3万円ほどは持ち出しになりますし、ボランティアもお金がないとできないのかもしれないですね。でも、私はそれも健康税だと思っ

—— **最後に、現役地方公務員にメッセージをお願いします。**

私は、地域に生きてこそ公務員だと思ってきました。それは何も特別なことじゃなくても、例えば大雪が降ったら近隣の雪かきをするだけでもいい。大切なのはそういう気持ちを持つことです。私も雪の日には隣接する保育所の子どもたちのため、早起きして雪かきをしてから出勤していました。大雪なんて首都圏だったらせいぜい年に1〜2回くらいですよ。いまの時代、激戦を勝ち抜いて公務員になる方が多いようですが、そこにあぐらをかくのではなく、市民のために何かできるかを考える。そして、決まった仕事をするだけでなく常に改善の意識を持っていることが大切なのだと思います。

—— **これから益々のご活躍期待しています。**